

非稼働病棟を有する医療機関の説明資料

1. 医療機関の状況

医療機関名	総合大雄会病院				
所在地	一宮市桜 1-9-9				
各病棟の状況 ※2019年度実績	病棟名	病床機能	病床数	病床利用率	主な診療科
	HCU	高度急性期	16床	74.8%	脳神経外科、循環器内科
	ICU	高度急性期	8床	72.3%	脳外科、循環内科、心臓外科
	南4階	急性期	24床	74.5%	産科
	南5階	急性期	36床	89.3%	脳神経外科
	南6階	急性期	38床	81.3%	呼吸器内科、呼吸器外科
	南7階	急性期	38床	81.5%	循環器内科、心臓外科
	南8階	急性期	38床	87.2%	消化器内科、外科
	南9階	急性期	38床	89.1%	整形外科
	中2階	急性期	20床	44.0%	小児科
	中3階	急性期	36床	84.9%	呼吸器内科、血液内科
	中4階	回復期	30床	90.2%	リハビリテーション科
	北3階	回復期	20床	93.1%	リハビリテーション科
	北DL	急性期	29床	78.4%	婦人科、消化器内科、外科
中5階		8床	0%	休床病棟	
計			371床	82.0%	休床8床を除く
計 379床 (休床8床を含む)					
地域における役割	高度急性期・急性期医療、救急、小児・周産期、災害拠点、地域医療支援、初期臨床医研修、専攻医研修				

2. 非稼働病棟の状況

非稼働開始時期	2018年 1月
非稼働の理由	透析治療を担う複数名の腎臓内科医師の採用が計画通りに進まず、当初計画が遅れている。また2020年に入ってから新型コロナウイルス感染症による病院経営への影響が大変大きく、将来の収支計画を見直しせざるを得なくなり、診療科の移転と8床の稼働は2025年4月になると考えている。

今後の予定	廃止 ・ 再稼働
時期	2025年 4月

(以下、再稼働の場合のみ記載)

再稼働後の機能	急性期
再稼働に向けた取組	総合大雄会病院、大雄会第一病院、大雄会クリニックの改装工事を計画。第一病院は施工業者が決定し2023年7月に着工する。
病棟維持の必要性	令和5年2月24日の令和4年度第3回尾張西部構想区域地域医療構想推進委員会にて、当法人より非稼働病棟の現状について説明。総合大雄会病院及び大雄会第一病院2025プランの変更案を承認いただいた。 総合大雄会病院は、大雄会第一病院から泌尿器科、形成外科、血管外科を移転し、高度急性期、急性期機能を集約、救急医療、悪性腫瘍等、様々な診断、治療に対して多面的かつ効率的に対応する356床の急性期病院とする。 一方、大雄会第一病院は総合大雄会病院から回復期リハビリテーション科を移転し、回復期病棟(50床)、地域包括ケア病棟(60床)、緩和ケア病棟6床を含む急性期病棟(45床)を有する亜急性期機能を強化した155床の病院とする。 そのため、休床中の8床は必要である。